

オーディオ黄金期を支えた先駆者たち

創業者に聞く

3

アムトランス 草薙正朗氏

真空管の輸入販売を振り出しに、今やオリジナルのオーディオ向け抵抗器やコンデンサのメーカーとしてオーディオ界を支える、アムトランス株式会社の草薙正朗代表取締役社長に、四半世紀に及ぶ歩みと、商社からメーカーへの転身のいきさつをうかがった。

鉄道からラジオ、オーディオへ

東京に来たのは小学校3年生のときで、そのころは毎週日曜になると交通博物館(神田須田町)に行っていましたね。お小遣いとしてもらった100円から電車賃を出して、館内の食堂で25円のかけそばを食べて、映画もやっているから1日遊べるんです。

秋葉原が近いので鉱石ラジオを作るようになって、そして5年生のころに、最初の真空管アンプを作りました。いわゆる「ラジオ少年」です。

サラリーマン時代はお金も時間も余裕がなくて、オーディオからは遠ざかっていました。29年間サラリーマンをやって、自分がサラリーマンに向いていないことに気付き(笑)、平成3(1991)年、川崎市の自宅で「アムトランス有限会社」を設立して、始めたのが真空管の輸入卸でした。

メーカーの立場でものを売る

かつて、真空管に関して「アキバ」は決しているイメージを持たれていなかったんです。例えば、安い真空管のプリントを消して「マツダ」のマークを印刷した「カンマツ」や、測定していない「ペア管」といったように、開業に当たって、それらと同じように見られたくないと思いました。



最初の自社開発品、カーボン抵抗AMRS(2004年発売)

そこで、販売する真空管は全数測定することになりました。私はテクニクスに勤めていたので、測定はできますが、場所も取るし、予備加熱の時間もかかる。自宅でしたから大変でしたが、出力管にはデータを付けることができるようになりました。

それに加えて、2年間保証することになりました。同業者からは「やめてくれ」と言われましたが、測定と2年保証で、信用は得られたと思います。今は1年保証ですが、中古品も測定し、保証を付けました。単なるブローカーではなく、メーカーのような立場で商社としてものを売りたいと思っていました。

平成7(1995)年に秋葉原店を開設し、平成14(2002)年には本社を神田淡路町の現在のビルに移し、平成16(2004)年には「アムトランス株式会社」に改組しています。

サラリーマン時代は営業だったし、動けば動くだけ売れると思っていたんですよ。しかし、アムトランスなんて会社は誰も知らないから売れません。最初に買ってくださったのが森川忠勇さん(オーディオ専科)で、ウエスタンの310Aを数十本でした。会社の名前に頼るのではなく、初めて自分の力でものを売ったというのはうれしかったですね。営業とは何か、初めてわかったような気がします。

真空管再生産前夜

開業したころ、真空管オーディオはすたれ始めていました。かつて、真空管のストックのほとんどは各国の軍が持っていて、その放出品が簡単に手に入り、各国の真空管専門商社からも、いくらでも仕入れられました。ナマモノではないので在庫していても腐ることはなく、値段はさらに上がります。

ところが、NATO軍とアメリカ軍の放出がなくなり、ヴィンテージ管も出回らなくなってきました。当時は、真空管ビジネスには、常に真空管枯渇の不安がありましたね。中国製のオーディオ用真空管、例えばゴールドドラゴンが現れたのは、私が創業してしばらくたったころです。

自分でやったらいいじゃない？

あるとき、理研電機製造の営業部長さんと仲よくなって、そこで作っているオーディオ用抵抗の営業権をいただいたんです。真空管と平行して理研の抵抗を売りました。国内大手メーカーだけでなく、海外にもよく売れてはいたのですが、理研電機製造は抵抗は儲からないので生産をやめると宣言したのです。ユーザーは何とかしてくれと言う。困ったのですが、誰も頼れない。そのとき「自分でやったらいいんじゃない？」という悪魔の声が(笑)。

長野県の伊那谷には、1970年代の最盛期には100何十社という抵抗の工場があったんです。養蚕の代わりに、農家の片隅でやっているようなところもありましたが、伊那谷の抵抗産業はすでに衰退していて、協力するという工場をやっと見付け、理研のRDシリーズの代わりになる抵抗の開発に着手しました。半年以上の開発期間の後、ユーザーの納得するものができました。それがオーディオ用カーボン抵抗「AMRS」です。

最初は、開発はアムトランス、生産は委託でしたが、1年ほどたったところで、工場を閉めると言われました。それだけ抵抗産業は衰退していたんですよ。そこでまた悪魔の声がして(笑)、工場を引き受けることになりました。

それからこんにちまで、大変な思いをしています。「ダメだから辞める」という会社を引き継いで、うまくいくはずがありません(笑)。経済産業省の課長さんが「なぜ、こんな衰退産業に新たに参入するのか」とインタビューに来たくらいです。

もともと経営が苦手でしたが、いろいろ学びまし



草薙正朗氏

た。一番苦労したのは資金調達ですね。でも、最近になって先行きに明るさが見えてきました。

入手した工場は、元は酸化抵抗を作っていました。電気製品の組み立てが海外に移行してから、国内での酸化抵抗の生産は急激に極端に減りました。このままがんばれば、いずれは残存者利益があるのではないかと思って、オーディオ用と一般工業用の酸化抵抗を生産しています。

平成17(2005)年から手がけているコンデンサーは、巻くまではメーカーさんをお願いしていますが、それ以降の工程にはいろいろノウハウがあって、自社工場ですべて仕上げられています。音質に関するパラメーターが抵抗より多いので、条件を変えることで、さまざまにチューニングできます。今では、どこをどうすれば音がどう変わるかが多少わかってきています。(構成：末永昭二)

アムトランス株式会社

本社・オーディオショップ「オーディトリウム」
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-10-14
ばんだいビル
TEL03-5294-0301 FAX03-5294-0302
秋葉原店
〒101-0021 東京都千代田区外神田1-14-2
秋葉原ラジオセンター1F
TEL03-3255-6548
<http://www.amtrans.co.jp>